

栽培から精油まですべての工程を町内で。 安全で安心なものづくり〜和ハッカを使った新商品開発〜

滝上町での和ハッカ栽培は明治後半からはじまり、100年以上の歴史があります。一時は安価な海外品や合成ハッカの登場で消滅の危機にありましたが、ここ最近、滝上の高品質なハッカが再び見直されてきています。

町内では現在、8軒の農家が栽培を手掛けており、その面積は約5ヘクタールほどですが国内の商業生産量の95%を占める滝上の誇れる資源です。

そんなハッカに注目、3年前からスタートし、実を結んだプロジェクトがあります。

ここでは、その取り組みにクロズアップし、プロジェクトに参加した和ハッカ生産者の佐々木涉さん、藤村利史さん、商工会事務局の勝藤広幸さんにお話しを聞きました。

【高品質で知られる滝上産和ハッカをもっと知ってもらいたい思いで】

勝藤▽商工会では平成26年、国内の商業生産量95%を占め、栽培から精油まですべての工程を町内で行っている和ハッカに着目、何か商品化し、滝上町の資源をもっと知ってもらえないかと考え、6次産業化を進める「滝上町特産品開発プロジェクト委員会」を立ち上げました。

翌年には全国商工会連合会の支援事業にも選ばれ、特産開発を本格的にスタートさせ、和ハッカ生産者である瀬川晃

一さん、佐々木涉さん、藤村利史さん3名にも加わってもらい開発を進めた結果、平成28年、生産者と商工会が立ち上げた「滝上町和ハッカ・ラボ」独自ブランドとして、フライフィッシングやキャンプや登山といったあらゆるアウトドアシーンを快適に安心して楽しむためのアイテム「SUUTOOL（スートクール）アウトドアマミスト」の製品化にこぎつきました。

この商品の特徴はもともとハッカには蚊やブヨを寄せ付けない虫よけ効果があることとされていますので、それら効果のほか、ハッカ成分100%

ということでもメントール濃度が高く、清涼感が持続し、リラクゼーション効果が期待できます。天然由来なので安心して使用していただけだと思います。

【特産品開発プロジェクトに参加して】

佐々木▽今回、プロジェクトに参加したわけですが、マーケティングやデザインなど様々な講師の方とお会いし、学べたことはたいへん重要であったと考えます。ターゲットをアウトドア愛好者に絞った場合、どういったサイズが好まれるのか？容器の形はどのようにしたらいいのかなど



アウトドアマミストは1本（10ml入）1,800円

気づかされる部分が多くあり、今後の自分の仕事にも大いに役立つものとなりました。

【今後の展開】

藤村▽まずは、今回開発した「SUUTOOL（スートクール）アウトドアマミスト」を全国のアウトドア愛好者に知ってもらうため、積極的に札幌や東京などの釣具店・アウトドア用品店に出向き積極的にセールスをかけていきたいと思っています。今回、千本を商品化しましたが、初年度の目標として三千本の売り上げを目指しています。5月初めより町内でも道の駅や芝ざくら公園で販売しています。最近、外国人観光客も訪れていることから、外国語表記のポップなども用意して、滝上の和ハッカを世界に広めたいですね。今後は、現在、商品ラインナップが一つしかありませんので、和ハッカの魅力をもっと知ってもらうため第二弾・第三弾の商品開発も進めていけたらと考えています。

組織情報

滝上町和ハッカ・ラボ

- 目的／滝上町産の和ハッカの認知度向上と和ハッカを使用した開発商品の普及・販売。
- メンバー／薄荷生産者、商工業者、各種団体、滝上町民
- 会長／瀬川晃一
アウトドアマミストは道の駅で販売中！



今回話しを聞いた勝藤さん、佐々木さん、藤村さん(左から)